



注目ポイント

- ✓先週、ドル円は一時148円85銭まで大幅な円高が進んだ。米関税政策やウクライナ停戦交渉の不透明感によるリスク回避の円買いや、日銀の追加利上げ観測が円買い材料となった。国内金利は大幅に上昇したが、週末に植田日銀総裁の金利上昇を牽制する発言を受け、上昇に一服感も。日経平均は、円高や米関税懸念が足枷となり上値が重く小幅下落した。
- ✓FRBは政策金利維持の方針を示す一方、日銀の追加利上げ観測が強まり、円買い材料が多く、今週もドル円は円高基調が続く可能性が高い。国内金利は、長期金利の上昇が一服し、もみ合いの展開か。日経平均は、円高や米関税懸念が重しとなり、上値の重い展開となろう。注目の経済指標としては、28日の東京都都区部CPI(2月)や米PCE物価指数(1月)。また、株式市場では、米エヌビディア決算発表(27日)に期待が集まる。
- (門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2025年2月17日

～

2025年2月24日

市場・指標			2月17日 ～ 2月24日		2月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	39,509	38,457	38,777	-372	-1.0%	
	米国	NYダウ(ドル)	44,769	43,344	43,461	-1,085	-2.4%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	22,935	22,226	22,426	-87	-0.4%	

市場・指標			2月17日 ～ 2月24日		2月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利(国債)	日本	10年(%)	1.455	1.360	1.420	+0.070	
	米国	10年(%)	4.57	4.39	4.40	-0.08	
	ドイツ	10年(%)	2.56	2.45	2.48	+0.05	

市場・指標			2月17日 ～ 2月24日		2月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		152.39	148.85	149.76	-2.55	
	ユーロ(円)		159.87	155.82	156.74	-3.09	
	豪ドル(円)		96.91	94.65	95.08	-1.66	

市場・指標			2月17日 ～ 2月24日		2月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート(ポイント)	1,697	1,676	1,682	+2	+0.1%	
	米国	NY原油(ドル)	73.25	69.80	70.82	+0.1	+0.1%	
		NY金(ドル)	2,974	2,888	2,966	+65	+2.2%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年2月25日 ~ 2025年2月28日


株式

上値重く、もみ合いか

日経平均
 【予想レンジ】 37,700 円 ~ 39,000 円

- 先週の日経平均は小幅下落。週前半はGDP速報値の上振れや長期金利の上昇を受け、金融株が買われる一方、円高により輸出関連株の売りが重しとなりもみ合いの展開だったが、週央からはトランプ米大統領の関税強化発言が市場の警戒感を高め、大きく下落。週末は国内金利の低下を受け、若干反発して取引終了。
- 今週の日経平均は、上値の重い展開となろう。27日発表の米エヌビディア決算が市場予想を大幅に上回れば、国内半導体株の上昇も期待される。また、25日開催の社会保障審議会で議論されるGPIFの中期目標見直し(運用利回り引き上げに伴う株式への資金配分増)も市場では注目されている。しかし、円高や関税への警戒から積極的に上値を追う展開は期待できないだろう。




金利(国債)

長期金利は、もみ合いか

10年国債利回り
 【予想レンジ】 1.400 % ~ 1.450 %

- 先週の国内金利は上昇。経済指標では、GDP速報値やCPIが予想より上振れたことが、また高田日銀審議委員のタカ派発言等も相まって、日銀の追加利上げ観測が急速に強まった。20年国債の入札も不調な結果に終わり、週末には10年国債利回りは一時1.455%まで上昇する場面も。ただし同日、植田日銀総裁の金利上昇を牽制する発言を受け、債券は若干買い戻されて(金利は低下して)取引を終了。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。先週、割高と見られていた10年以上の年限の利回りも調整(上昇)が進んだことで、金利上昇が一服したとの見方も多い。その上でも、今週は28日発表の東京都区部CPI(2月)に注目が集まる。ただし、結果が弱い数値でも、追加利上げ観測が根強い中、金利低下余地は限定的となろう。




為替(米ドル)

円が上値を試す展開か

米ドル/円
 【予想レンジ】 145.00 円 ~ 151.00 円

- 先週のドル円は、21日には、一時1ドル=148円85銭まで円が買われるなど、大幅に円高ドル安が進展。米政権の関税政策やウクライナ停戦交渉の不透明感がリスク回避の円買いを促すとともに、日本のGDP上振れや日銀の追加利上げ観測が円の支えとなり、また米PMIの悪化や米長期金利の低下がドル売り要因となった。
- 今週のドル円は円が上値を試す展開か。米景気の底堅さを背景に、FRBは政策金利維持路線に転換した。一方で、CPIの伸びが背中を押す形で、日銀の追加利上げ観測が急速に強まっており、足元では絶対的な金利差を除けば、円買いドル売り材料だらけ。今週、日本では東京都区部CPI(2月)、米国ではPCE物価指数(1月)の発表に注目が集まる。結果次第でさらに円高ドル安が進む可能性に注意が必要。



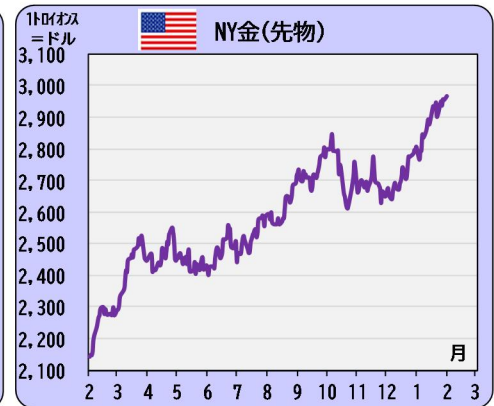
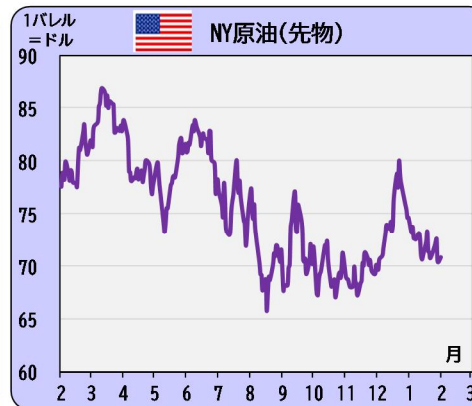
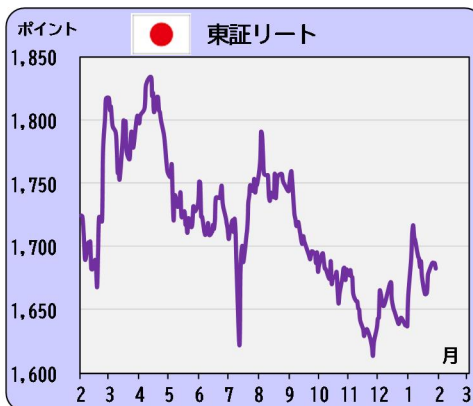
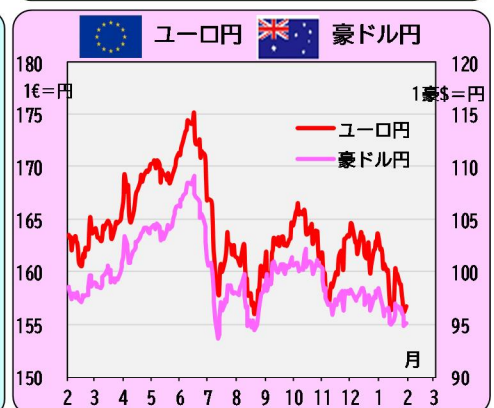
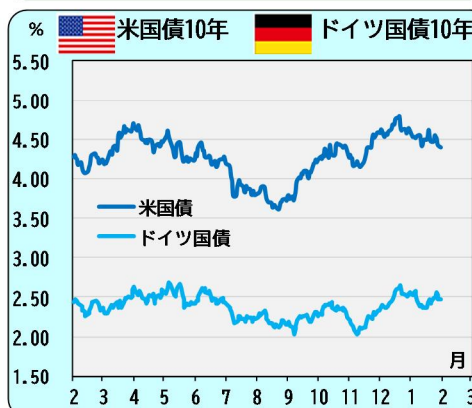
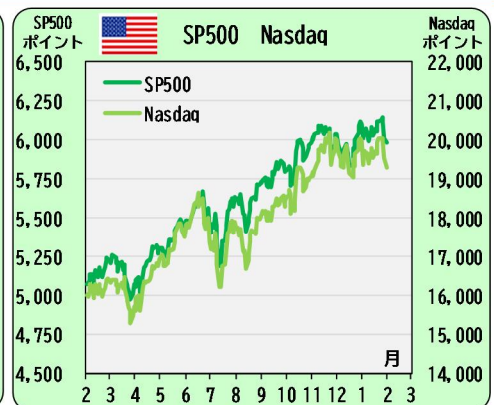
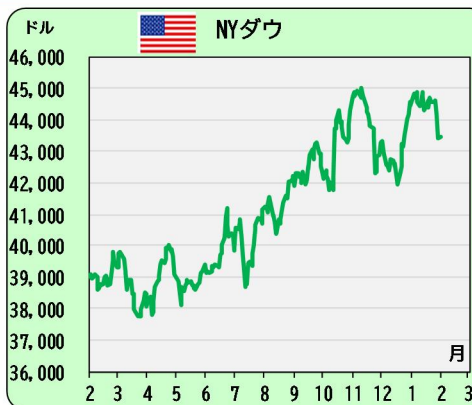
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
2/24(月)	天皇誕生日(振替休日)	
2/25(火)		米国: S&Pケースシラー住宅価格指数(12月) 米国: コンファレンスボード消費者信頼感指数(2月)
2/26(水)		米国: 新築住宅販売件数(1月)
2/27(木)	国債入札(2年)	米国: GDP(10~12月)改定値 米国: 耐久財受注(1月) 米国: エヌビディア決算
2/28(金)	東京都区部CPI(2月) 住宅着工統計(1月) 小売業販売額(1月) 鉱工業生産指数(1月)	米国: 個人所得・個人消費支出(1月)



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。